

令和5年度 多摩市立多摩第三小学校 学校評価書

学校教育目標	
かしこく [自ら学び考え行動する個性と、協働して解決する創造力豊かな子供]	
○正しく [互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある子供]	
たくましく [心身ともに健康で、人とのかかわりの中で共に生きていく子供] ○は重点目標	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
「みんなで作る 笑顔あふれる 楽しい学校」 ～学校・保護者・地域が互いに連携・協働し、子供たちを育てます～	
目指す子供像	目指す教師像
・自ら学び、考え、粘り強く学習に取り組む児童 ・自他を尊重し、規範意識のある児童 ・望ましい人間関係を築くことができる児童	・児童理解に努め、授業改善を図ることができる教師 ・組織の一員としてやりがいをもって働くことができる教師 ・保護者、地域と連携・協働し、教育活動を行う教師

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	・問題解決の過程を重視した「三小スタイル」の授業の実施 ・ESD 推進校として小中連携した ESD の充実			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
児童自らが問題やめあてをつかみ、見直しをもって解決し、振り返ることのできる授業の実践を行い、研究やOJTを通して授業改善に努める。	4	授業改善推進拠点校として、理科、生活科を中心に様々な教科で授業実践を行い、児童の主体的な学びにつながった。市内外に成果を発表した。	A	問題の解決に際して、そのプロセスが重要であることを体得させることは将来の様々な応用に大きな自由度をもたせられる。
週 3 回程度、タブレット端末を使用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を意識した授業を行う。	3	8割の学級が毎日タブレット端末を使用した授業を行っており、課題の提示、考えの記録や共有等、様々な活用を行った。	B	問題解決する習慣を早い段階から身に付けることは素晴らしい。教員も授業改善に取り組んだ。
SDGsを踏まえた ESD の実践を教科等で各学期1回以上実施する。	3	各学年充実した取組を行った。特に「子どもみらい会議」では、小中連携して学習の成果を発表することができた。	B	今後は、生成 AI も視野に入れた教育の在り方を考えたい。
評価のまとめ	授業改善推進拠点校としての取組は、教員の授業改善だけでなく、子供の主体的な学びにつながり、成果があった。この研究の成果を継続するとともに、教育の新しい流れを取り入れながら、授業力向上に努めたい。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	・望ましい生活習慣と規範意識の確立 ・いじめの早期発見と未然防止に向けた指導の充実 ・児童の自己肯定感を高める。			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
学校いじめ防止基本方針に基づいた取組を徹底し、児童アンケートの「学校が楽しい」の肯定的評価を8割以上とする。	2	いじめ問題に対する取組の保護者の肯定的評価は45%、「分からない」が51%であったので、今後保護者へ取組を周知していく。児童の「学校が楽しい」の肯定的評価は94%であった。	B	学校が楽しく感じる児童が殆どということは素晴らしいが、残りの6%の児童がそう感じていない背景に何があるのかの解析もお願いしたい。
主体的な学習活動や学校行事等の充実を図り、児童アンケートの「自分に自信がある」の肯定的評価を8割以上とする。	3	児童の「自分に自信がある」の肯定的評価は88%であった。様々な行事等が再開し、主体的な学びを推進してきた。	B	いじめ対応についての学校なりの対策を見えるようにしたい。
あいさつ運動を実施し、保護者アンケートの「あいさつをすることができる」の肯定的評価を8割以上とする。	3	保護者の「あいさつをすることができる」の肯定的評価は92%と高い。今後様々な形で、挨拶運動を推進していく。	A	児童全員が自己肯定感をもてるような取組を今後も推進していただきたい。
評価のまとめ	児童の肯定的評価は、3つの評価項目とも高い数値を示し、学校生活を前向きに捉えている児童が多い。少数の否定的評価をする児童の状況を把握し、対策を講じたい。いじめ対策については、見える形で保護者・地域に発信していきたい。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	・外遊びの推奨と体力向上旬間の実施 ・学校2020レガシーの取組の継続と充実			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
ロング昼休みの充実を図り、児童アンケート「休み時間に外で遊んでいる」の肯定的評価を8割以上とする。	2	ロング昼休みは全学級が外遊びをしているが、児童の「休み時間は外で遊んでいる」の肯定的評価は74%とやや低かった。	B	屋外で体を動かして遊ぶことは体力の向上のみならず、今後大人になって必要な運動神経ネットワークの構築に必要な不可欠である。
縄跳びやジョギング等の体力旬間を実施し、保護者アンケート「運動に親しんでいる」の肯定的評価を8割以上とする。	3	体力旬間では、積極的に体を動かす様子が見られた。保護者の「運動に親しんでいる」の肯定的評価は84%であった。	B	メンタル面での成長にも大きく寄与することから、ここに掲げられた事項は今後も強気に進めていただきたい。
学校2020レガシーとして障がい者理解、ボランティアマインドの育成を図り、外部講師を招いた学習の場を設ける。	3	ボランティアセンターから外部講師を招いたり、ひとときの和の活動を行ったりして、ボランティアマインドの育成を図った。	B	親子スポーツ大会を開いたり、予算を新しい遊具の購入に使ったりできないか。
評価のまとめ	学年が上がるにつれて、外に出て遊ぶ機会が減る傾向にある。体力向上については、休み時間等に自由に体を動かす機会と、体育や体力旬間等で計画的に体力づくりに取り組む機会をバランスよく組み合わせていきたい。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開やホームページ等の情報発信による家庭や地域への理解推進</li> <li>・地域とともにある学校づくりの充実</li> </ul>			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
学校評価における地域・保護者の「学校の様子を知らせている。」の肯定的評価を8割以上とする。	3	保護者の「学校の様子を知らせている」の肯定的評価が96%と高い結果となった。	A	肯定的評価は高いが、地域・保護者等の生の声をもっと拾えるようにしたい。今年度は、今まで自粛中だった地域の盆踊りやお祭りが再開してきたので地域の人達との交流の場に恵まれた。地域団体としても三小との関わりを密にしていきたい。
教育連携コーディネーターを活用した取組の拡充を図り、計画的に実施する。	2	今後に向け、教育連携コーディネーターとのさらなる連携を図り、学習活動の支援や地域人材の確保等を実施していきたい。	B	
地域行事や地域活動に積極的に参加するとともに、地域人材を活用した授業を各学年実施する。	3	地域行事も再開し、参加することができた。地域人材を活用した授業も全学年で様々な分野の方々をお呼びして実施した。	A	
評価のまとめ	地域行事が再開したことで、学校と地域が直接関わる機会も増え、児童にとっても地域の存在を身近に感じることができたのではないかと思う。今後は、教育連携コーディネーターの活用も含め、地域との様々な取組を充実させていきたい。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<p>学校の状況としては、概ね落ち着いており、保護者・地域も学校に対して協力的である。</p> <p>今年度、授業改善推進拠点校として研究に取り組んできた成果を、次年度の指導に生かし、児童の主体的な学びにつなげるとともに、新しい教育の流れを取り入れながら引き続き授業改善を進めていきたい。</p> <p>また、地域とのつながりについては、さらに連携を深めていくとともに、地域防災や安全対策、建て替え等、様々な課題に対して対策を講じ、推進していきたい。</p> <p>次年度の目指す学校像としては、「あいさついっぱい みんなでつくる 笑顔あふれる 楽しい学校」を掲げ、自然に誰とでも挨拶のできる児童・教職員であることを目指すとともに、児童の意見や考えを取り入れながら学校運営を行ってきたい。</p>
--

以上のとおり報告いたします。

令和6年 3月 1日

多摩市立多摩第三小学校 校長

坂野 真貴子

公印

# 令和5年度 学校評価書



## 多摩市立多摩第三小学校